

丸協にゅーす

- (続) 渡部智社長対談：湯浅和夫氏（株式会社湯浅コンサルティング社長）
- 「働き方改革」で、何がどう変わる？
- 今、知っておきたい物流topics 「働き方改革が不十分で事業許可取消」
- 丸協topics 「SDD Project」



社長対談：湯浅和夫氏（株式会社湯浅コンサルティング代表取締役社長）



前号からの続きです。「物流危機」と言われますが、今後、物流はどうなるのか。物流事業者はどうあるべきか。渡部社長がかねてより敬愛しているという湯浅和夫氏との対談により、方向性を探ります。

写真左から湯浅社長、渡部社長

社長）湯浅先生からは「**物流はないほうがよい**」と学びました。これは丸協社員にもぜひ頭に入れてもらいたい。物流は重要な不可欠な機能だが「やればやるだけ価値が生まれる」ものではない。いかに必要最小限の物流で、求められる役割を果たすかが大事です。

湯浅）その考え方は、いまの物流危機への対応にも役立ちますね。

社長）安藤小四郎先生から学んだことは私の心の支柱になりました。「**運送業の経営に必要なこと**は何やと思う？」と問われ、私は、品質、教育などと答えました。それなりによい答えではと思ったのですが、安藤先生はどちらも否定し、静かに「**情熱や**」と言われました。

湯浅）古武士のような方でしたね。お会いするたびに背筋を正さねばならない気持ちになりました。

社長）物静かな表情の中に、いつも強い覚悟や情熱を感じました。あの情熱がなければ、物流大学校のようなプログラムもたくさんの卒業生たちも生まれなかったと思います。

実は、お見舞いに伺った際、眠っておられたのですが、看護師さんが起こして下さい、お話をすることができました。「運送業のために頑張れ」と活を入れられました。その翌日に訃報を聞き、本当に驚きましたが、最期に頂戴したメッセージは忘れられないものとなりました。

安藤小四郎先生のお葬式の会場には、物流大学校で渡部社長がパネリストをしておられる写真が飾られていました。安藤先生にとっても渡部社長は頼もしい「生徒」だったに違いありません。



「働き方改革」で、何がどう変わる？

働き方改革をすすめる坂本さんにお話を伺いました。

坂本さんにQuestion！）「物流危機」の最大の原因は、ドライバー不足であると言われています。丸協さんでは、ドライバー不足についてどのようにお考えですか。

坂本）定着率を高めることが、人材を確保し、質の高いサービスを提供することにつながると考えています。ドライバーさんも作業者さんも、定着率は比較的高いほうですが、もっと高くないといけないと思っています。そのため、ドライバーさんにも働き方改革会議のメンバーに入ってもらい、細かな要望も聞いて対応しようとしています。

Q！）ドライバーさんからの要望で夏用のズボンを作っておられましたね。

坂本）はい、今年の夏も大活躍すると思います。また丸協ではお客様の前に出るときは、きちんと見えるよう襟のあるポロシャツと決めているのですが、荷役作業等の際には作業の快適性のほうが大事です。夏の暑い時などに何度も着替えられるよう、複数枚を支給しています。

Q！）服装も重要な作業環境の一つですね。

坂本）はい。“快適な〇〇”というと贅沢品のように聞こえるかもしれませんが、仕事に必要なものについては、服装等も含め、スピーディで品質のよい作業を提供するために必須の道具であると考え、今後も積極的に工夫していきたいと考えています。



働き方改革会議のメンバー



左から濱口（ドライバー）、妹尾（ドライバー）、
新居倉庫統括次長、岡崎執行役員、吉川室長、森本課長代理

働き方改革が不十分で事業許可取消

2019年4月、関東西武運輸が事業許可取消処分を受けました。400台の車両を保有する規模の会社です。

同社は2017年、大幅な残業問題等が指摘され、30日間の事業停止等、2回の行政処分を受けました。その後、一部の運送契約の解除等、社長をトップとして改善を試みていましたが、ドライバーの退職などにより十分な改善ができなかったということです。

このような事態を防ぐには、会社側の労務管理ももちろん重要ですが、ドライバーや作業・事務スタッフの労働時間を守る業務内容となっているかも重要なポイントです。これには「荷主の要望」が大きく影響します。

もし下記のような、無理な要望があるならば、早急な改善が必要です。上司や社長に相談してください。「荷主にモノ申すのは申し訳ない」のではなく、会社を守り、従業員を守り、荷主に対しても安定的な物流を供給し続けるために行うべきことです。



SDD Project とは

2007年にFM OH! (FM OSAKA)が主催となって発足した飲酒運転防止プロジェクトで、丸協運輸は2009年よりプロジェクトに参加しています。

「あなたには何ができますか？ 飲酒運転をなくすために」というコンセプトを継続し、一人でも多くの方々に飲酒運転の先にある悲劇について考え行動するきっかけを作っていただくことを主眼としています。

SDD 2018-2019 主な活動内容

- ・FM OH!各DJによるSDD箱番組、飲酒運転撲滅に対する啓発メッセージの発信など。

- ・「SDDポスター」の掲出、「SDDメッセンジャーステッカー」の配布など啓発PR活動



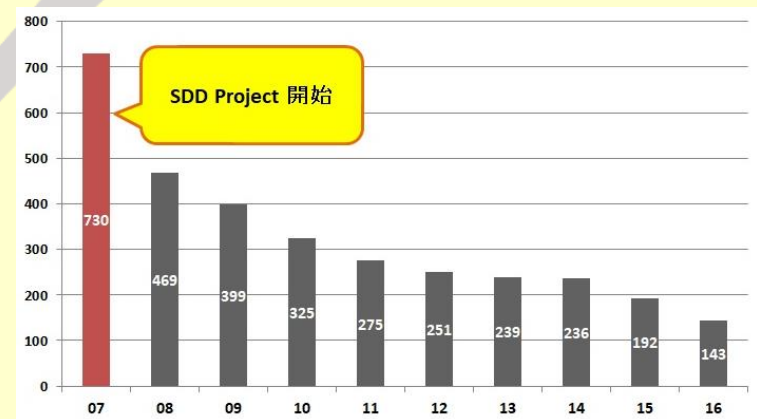
- ・プロジェクトに賛同したアーティストによる「LIVE SDD」



(「SDD～STOP DRUNK DRIVING PROJECT 飲酒運転防止プロジェクト」
<http://fmosaka.net/sdd/index.html> より作成)

SDDプロジェクトの成果

- ・ SDD Projectが発足して以降 飲酒運転の年間事故件数が、2007年に**730件**あったのが2016年には**143件**まで減少しました。
しかし、未だ0件には到達していません。



(「FM OH!様ご提案書 (大阪府警察本部調べ)」より作成)